

平成 21 年度

特別展 「鏑木清方 ローマ開催日本美術展と関西への旅」

昭和 5 年(1930)、イタリア政府主催によりローマで日本美術展覧会が開催された。清方をはじめ、当時の日本画壇を代表する総勢 80 名の画家により描かれた日本画 168 点が出品されるという一大展覧会だった。清方は「七夕」「道成寺・鶯娘」等を出品したが、展覧会には出席せず、ローマへ旅立つ友人・平福百穂と松岡映丘を見送るために神戸に行き、約二ヶ月にわたって関西を巡った。

『ローマ開催日本美術展覧会』出品作の他、この時の関西旅行にまつわる作品などを展示した。



会期 平成 21 年 4 月 25 日(土)～平成 21 年 5 月 27 日(水) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,164 人(一日平均:102 人)

関連事業

「平成 21 年春の特別展作品選集」発行 (4 月 25 日)

関連記事

「鏑木清方記念美術館 特別展 5/27 まで」(5 月 1 日 広報かまくら)

「美術館・文学館めぐり 鏑木清方記念美術館 ローマの日本美術展」(5 月 1 日 鎌倉朝日)

「Friday かながわイベントガイド 特別展「鏑木清方 ローマ開催日本美術展と関西への旅」」(5 月 8 日 読売新聞)

「鏑木清方記念美術館 特別展 鏑木清方 ローマ開催日本美術展と関西への旅」

(5 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
道成寺・鶯娘	昭和 4 年(1929)	絹本着色・軸(双幅)	(各)183.0×74.5	鎌倉大谷記念美術館 大谷コレクション
七夕	昭和 4 年(1929)	絹本着色・六曲一双	(各)171.0×378.0	大倉集古館蔵
南枝綻ぶ	大正 13 年(1924)	絹本着色・軸	130.5×41.8	福富太郎コレクション
向島の花	昭和 13 年(1938)	絹本着色・軸(双幅)	(各)115.0×27.0	同上
		制作年等	形態	所蔵
趣意書		昭和 4 年(1929)		大倉集古館蔵
羅馬開催日本美術展覧会記念圖録		昭和 5 年(1930)	書籍	同上
ローマ展展示風景		昭和 5 年(1930)	絵はがき	同上
伊太利政府主催 大倉男爵後援 羅馬開催日本美術展覧会に就て		昭和 5 年(1930)	書籍	同上
昭和 5 年・ローマ開催日本美術展覧会の回想		昭和 55 年(1980)	書籍	個人蔵

【所蔵品】

「笠の曲(娘道成寺)」「襟おしろい」「舞妓」「大和路の或る家」「道行浮峙鷗」「早見の藤太」「にごりえ(全 15 図)」「芸妓」「ふたつあちさみ」「築地明石町の船・詞」「鍾馗」「あじさい」「芍薬」「牡丹 一」

「築地明石町(下絵)」「築地明石町(スケッチ)」「(3 点)」「舞妓(スケッチ)」「唐招提寺南大門前(スケッチ)」「芸妓(スケッチ)」「つつじ(スケッチ)」

「茶屋の二階(婦人風俗十二題その七 明治中世)(『婦女界』口絵)」「いけす(『婦人公論』挿絵)」

「妓女三態(『鏑木清方繪入本 御濠端』)」「婦人之友」表紙(昭和 13 年 4 月號、5 月號、6 月號、7 月號、8 月號)

「梅雨五題(笹団子)(『女性』口絵)」

特別展 「清方と隅田川」

隅田川は、江戸、東京の交通の要であり、また花見や花火、納涼など、市民の生活に深く関わっていた。清方は江戸の面影残る東京に生れたこともあり、画趣を感じて描いた作品も少なくない。《墨田河舟遊》は、江戸時代に思いを馳せ、華やかな舟遊びの様子に取材し、《墨田川兩岸》は我子の行方を追って木母寺^{もくぼじ}辺りを訪れた母の姿と、当時盛んであった今土焼きの風情を描いている。

清方が好んで描いた隅田川(大川)を中心とした市井の情趣豊かな作品を展示した。

会期 平成 21 年 5 月 30 日(土)～平成 21 年 7 月 5 日(日)

(開館日数:31 日)

総入館者数 3,192 人(一日平均:103 人)



関連事業

「平成 21 年春の特別展作品選集」発行 (4 月 25 日)

美術講演会 「鏑木清方と隅田川界限」

【講師】谷口榮氏(葛飾区郷土と天文の博物館学芸員)

【日時】平成 21 年 6 月 2 日(火)13:30～15:30

関連記事

「鏑木清方記念美術館 特別展 清方と隅田川」

(5 月 25 日、6 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鏑木清方記念美術館 特別展「清方と隅田川」」(6 月 1 日 広報かまくら)

「気になる情報ばれっと 鎌倉市鏑木清方記念美術館」(6 月 12 日 上毛新聞)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
墨田川兩岸(梅若塚・今戸)	大正 6 年(1917)	絹本着色・軸(双幅)	(各)142.2×50.5	川口市蔵
山谷堀	明治 43 年(1910)	絹本着色・軸	94.5×26.5	福富太郎コレクション
社頭春宵	大正 12 年(1923)	絹本着色・軸	54.6×72.0	同上
墨田河舟遊	大正 3 年(1914)	絹本着色・六曲一双	(各)168.0×362.0	東京国立近代美術館蔵

【所蔵品】

「ほづき」「新大橋之景」「年増美人」「註文帖(全 13 図)」

下絵 「少年」「金魚屋」「五月雨(小下絵)」「築地川界限(軽子橋、佃の渡、明石町、築地海岸)」「紫陽花の谷」

「たけくらべ(つり忍)」

『今様絵詞の会』(「築地川みちしほ」「下町に灯のともる頃」)

「花菖蒲(スケッチ)」(3 点) 「瓦焼き風景(スケッチ)」「堀切菖蒲園(スケッチ)」

口絵 「夕涼み(『文藝界』)」「浴後(『文藝界』)」「星多き夜(『婦人世界』)」

『文藝倶楽部』(「ゆふ暮」「八幡鐘」「汐干狩」「白魚」「都鳥」「いで湯の夕べ」「ひともし頃」)

「濱町河岸の秋(『清方美人畫譜』)」「朝寒(清方畫譜の十一)(『講談雑誌』口絵)」「梅雨五題(堀切)(『女性』口絵)」

「紅梅屋敷(『苦樂』表紙、下絵)」「緑蔭(口絵)」

「一畫一文 堀切(『鏑木清方文集 五 名所古跡』)」

収蔵品展 「清方の夏休み ～涼を求めて～」

清方は、暑い東京を抜け出し、子どもたちを連れて毎年避暑に出かけた。海水浴や、山路の散策、盆踊りや村芝居、花火、蟹つりなど、楽しむことに事欠かなかった。またそれは、秋に行われる展覧会の出品作を制作するための英気を養う期間でもあった。夏の生活を収めた絵日記類や、夏の風情が感じられる作品を集めて展示した。

会期 平成 21 年 7 月 10 日(金)～平成 21 年 8 月 30 日(日)

(開館日数:45 日)

総入館者数 2,477 人(一日平均:55 人)



関連事業

「夏休み子ども参加プログラム」

【テーマ】日本画材を使って絵日記を描こう！

【開催日時】平成 21 年 7 月 30 日(木)・31 日(金)・8 月 7 日(金)9:30～10:30

「夏休み親子鑑賞」

【開催期間】平成 21 年 7 月 18 日(土)～8 月 30 日(日)

関連記事

「情報パレット 収蔵品展「清方の夏休み～涼を求めて～」(7 月 4 日 リビング湘南)

「Friday かながわイベントガイド 鎗木清方記念美術館 「清方の夏休み～涼を求めて～」

(7 月 14、28 日、8 月 25 日 読売新聞)

「鎗木清方記念美術館 収蔵品展「清方の夏休み～涼を求めて～」(7 月 15 日 広報かまくら)

「ギャラリー 収蔵品展「清方の夏休み～涼を求めて～」(7 月 24 日 読売新聞)

「鎗木清方記念美術館 収蔵品展 清方の夏休み～涼を求めて～」

(7 月 25 日、8 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鎌倉市鎗木清方記念美術館 収蔵品展「清方の夏休み～涼を求めて～」(8 月 1 日 江ノ電沿線新聞)

「美術館・文学館めぐり 鎗木清方記念美術館 清方の夏休み展」(8 月 1 日 鎌倉朝日)

「清方の夏休み～涼を求めて～」(8 月 1 日 湘南よみうり)

出品作品

「朝夕安居 昼」「砂浜少女」「ゆかた」「菊慈童」「干物」「鯉」「柳の下に涼む娘」「夕立雲」「ゆあみ」「太夫」「山百合」

「游心庵漫筆(第 2、4、7 図)」「夏の生活(第 5、19、23、27 図)」「夏の思い出(第 18 図)」

「君ヶ寄漫筆(金沢絵日記の二)(第 5、14、18 図)」「金沢絵日記(第 1、2、7、10 図)」

下絵 「氷店」「船住居」「金沢游心庵」「朝夕安居 昼」「築地川界限(築地河岸、佃の渡、軽子橋、明石町)」

スケッチ 「富士山」「朝顔」「十五夜、かたつむり」「胡瓜」「向日葵」「入道雲」「木」「鎌倉の海」「とろろあおい」「あざみ」

「うちわを持つ女性」「蛙 茄子 蛸」

『画集 東京と大阪』より「東京 築地川」(「明石町」「組立燈籠」「船住居」「瀬化ける」「氷店」「紫陽花の垣」「作者」)

『少女界』表紙絵(「花園」「海水浴」「葡萄」「赤蜻蛉」)

『文藝倶楽部』口絵(「蚊遣の煙」「梅雨晴」「いで湯の夕べ」)

「しほかぜ(口絵)」「とんぼつり(口絵)」「海水浴(口絵)」

「小杉天外著『落花帖』後編 口絵」「渡邊霞亭著『渦巻』上編 口絵」

収蔵品展 「清方と巡る神奈川」

【第一期】

清方は鎌倉をはじめ、鶴見、金沢八景、大磯、箱根や湯河原など神奈川の風光明媚な地を訪れていた。

中でも、別荘のあった金沢八景(現・横浜市金沢区)に家族とともに度々訪れ、親しい人々と和やかな日々を過ごした。その様子を「夏の生活」や「游心庵漫筆」のような作品に絵日記形式で描いている。

また、長女との日々の散策から着想を得た《朝涼》の背景には、金沢八景の田園風景が広がっている。

第一期では金沢八景を題材にした作品を中心に展示した。

会期 平成 21 年 9 月 3 日(木)～平成 21 年 10 月 4 日(日)
(開館日数:28 日)

総入館者数 2,927 人(一日平均:104 人)



関連記事

- 「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展 清方と巡る神奈川(第1期)」
(7月25日、8月25日、9月25日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)
- 「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展「清方と巡る神奈川」第一期」
(9月1日 広報かまくら)
- 「神奈川マリオン 清方と巡る神奈川」(9月2日 朝日新聞)

出品作品

- 「朝涼」「水汲」「砧」「雨華庵風流」「龍膽」「風景」「春の立場茶屋(金沢春景)」
- 「夏の生活(第13、15、21、26図)」
- 「君ヶ寄漫筆(金沢絵日記の二)(第5、11、12、13、17、22、24図)」
- 「游心庵漫筆(第1、5図)」
- 「絵日記(第1、3図)」「絵日記(第4図)」
- 「金沢絵日記(第11、12、18図)」
- 「金沢瀬戸の夕潮(下絵)」「筆捨松(下絵)」
- スケッチ「朝涼」(3点)「水汲」「桔梗 蜻蛉」「葡萄」「蓮」(2点)「菊」「金沢八景」
「游心庵 凌霄花」「游心庵 柘榴」「游心庵 むくげ」
「武州金澤の蜷」「露草」「睡蓮」(2点)「柘榴」「龍膽」「水禽」(2点)「萩」
- 『清方美人畫譜』「青き星」「白壁」「島田くづし」
- 『講談雑誌』口絵「九月の海(清方畫譜の九)」「旅愁(清方畫譜の十)」「秋のおとづれ」
- 「秋漸く深し(口絵)」「思ひ出(口絵)」
- 「江島、鶴沼、逗子、金澤名所圖繪(『風俗畫報』)」
- 「金沢八景(『鎌倉清方文集 五 名所古跡』)」

収蔵品展 「清方と巡る神奈川」

【第二期】 「秋の情緒を訪ねて 初公開「桜もみぢ」」

新寄贈品である《桜もみぢ》《道成寺》《清流》《歳旦》の四作品を初公開し、秋の風情が感じられる作品、さらに清方にゆかりの深い神奈川にまつわる作品を展示した。

会期 平成 21 年 10 月 8 日(木)～平成 21 年 11 月 3 日(火・祝)

(開館日数:24 日)

総入館者数 2,523 人(一日平均:105 人)



関連記事

「鎌倉市 鐮木清方記念美術館 収蔵品展 秋の情趣を訪ねて」(集)

「鐮木清方の愛した鎌倉」(鎌倉三浦ミュージアム散策ガイド)

「鐮木清方記念美術館 収蔵品展 秋の情趣を訪ねて 初公開「桜もみぢ」

(9 月 25 日、10 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鐮木清方記念美術館 収蔵品展「秋の情緒を訪ねて 初公開「桜もみぢ」～清方と巡る神奈川 第二期」

(10 月 1 日 広報かまくら)

「美術館・文学館めぐり 鐮木清方記念美術館 清方と巡る神奈川・2 期」

(10 月 1 日 鎌倉朝日)

「鎌倉市 鐮木清方記念美術館 収蔵品展 秋の情趣を訪ねて」(11 月 1 日 鎌倉萌)

「鐮木清方記念美術館 収蔵品展「清方と巡る神奈川」」(11 月 1 日 かまくら四季のみどころ)

「神奈川マリオン 清方と巡る神奈川」(9 月 2 日 朝日新聞)

出品作品

「桜もみぢ」「道成寺」「清流」「歳旦」「雑司ヶ谷会式」「子供二人」「風景」「清子四歳像」「芸妓」「喜寿」

「夏の思い出(後半部分)」「夏の生活(第 16、25、29 図)」「游心庵漫筆(第 14、16、17 図)」

「にぎりえ(第 2～6、8～10、12～14 図)」

「たけくらべの美登利(下絵)」

スケッチ「芸妓のためのスケッチ」「桜もみぢ」「夏の思い出 大磯」「湖尻」「二子山」「小田原」「奥湯河原」

「伊豆かつらぎ山」「落葉」「栗」「松茸」「鯛」

「祝ひ月(『新小説』口絵)」「こすもす(『文藝倶楽部』口絵)」「あさ露(『文藝倶楽部』口絵)」

「菊池幽芳著『百合子』口絵(校合摺)」

「川上眉山著『店暖簾』(『新小説』口絵)」「秋江(一情一景)(『新小説』口絵)」

「武陽金沢八景略図」(『横濱(YOKOHAMA)』)

「江島 鶴沼、豆子、金澤名所圖繪」(『風俗畫報』)

「金澤八景」(『鐮木清方文集 五 名所古跡』)

書籍 「銀砂子(限定版)」「築地川(趣味版)」「築地川(普及版)」「築地川」「褪春記」「連翹」「柳小紋」

特別展 「清方と巡る東京」

清方は、明治から昭和にかけて、東京の様々な景色や風物を描いている。《一葉女史の墓》《教誨》はスケッチをもとに描き、《朝夕安居》は震災や戦災で失われた暮らしとその情趣を懐かしみ、当時を思い起こして描いている。また、《佃島の秋》《築地川》のように東京の地名を冠した作品や、清方の随筆により場所を特定できるものも少なくない。

本展では東京の風情を楽しむことのできる作品を中心に展示した。



会期 平成 21 年 11 月 7 日(土)～平成 21 年 12 月 13 日(日)

(開館日数:31 日)

総入館者数 3,401 人(一日平均:109 人)

関連事業

美術講演会「清方と巡る東京」

【講師】久染健夫氏(江東区中川船番所資料館学芸員)

【日時】平成 21 年 11 月 10 日(火)13:30～15:30

関連記事

「鎌木清方の愛した鎌倉」(鎌倉三浦ミュージアム散策ガイド)

「特別展 清方と巡る東京」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

「鎌木清方記念美術館 特別展 清方と巡る東京」(10 月 25 日、11 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鎌倉市鎌木清方記念美術館 特別展 清方と巡る東京」(11 月 1 日、12 月 1 日 鎌倉萌)

「鎌木清方記念美術館 特別展「清方と巡る東京」」(11 月 1 日 広報かまくら)

「鎌木清方記念美術館 特別展「清方と巡る東京」」(11 月 1 日、12 月 1 日 かまくら四季のみどころ)

「明治から昭和の東京を描いた 特別展「清方と巡る東京」」(11 月 15 日 月刊書道界)

「鎌木清方記念美術館 特別展「清方と巡る東京」」(11 月 15 日 鎌倉新聞)

「シティライフ 鎌木清方記念美術館 清方と巡る東京」(11 月 24 日 読売新聞)

「美術館・文学館めぐり 鎌木清方記念美術館 清方と巡る東京」(12 月 1 日 鎌倉朝日)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
初雁の御歌(小下絵)	昭和初期	紙本着色・額	76.0×65.5	明治神宮蔵
佃島の秋	明治 37 年(1904)	絹本着色・額	101.6×70.0	個人蔵
築地川	昭和 16 年(1941)	紙本着色・折帖(10 図)	(各)34.0×42.5	個人蔵
佃島の秋 自解	昭和 37 年(1962)	紙本墨・額	15.0×18.5	個人蔵
梅蘭芳		絵葉書		個人蔵

【所蔵品】

「寒月」「一葉女史の墓」「教誨」「孤児院」「カルメン」「梅蘭芳 天女散華」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」

下絵 「初雁の御歌(小下絵)」「朝夕安居 朝」「讚春(小下絵)」「江戸十五題 八幡鐘」「『今様絵詞の会』(築地川みちしほ、下町に灯のとる頃)」「築地川界限(佃の渡、明石町、合引橋)」「百花苑」「黒髪(小下絵)」

スケッチ「樋口家の墓」「巢鴨風景 教誨のためのスケッチ」「初雁の御歌」「夏の柳井戸」「萩」「お堀端」

『文藝倶楽部』口絵(「花吹雪」「白魚」「都鳥)」「上野の花(口絵)」

「神田祭(『苦楽』表紙、下絵)」「錦繡の秋(『苦楽』表紙)」「王子詣(『苦楽』表紙、下絵)」「曇(『苦楽』表紙、下絵)」「紅梅屋敷(『苦楽』表紙、下絵)」「樋口一葉著『たけくらべ』の美登利(『苦楽』表紙)」

鎌木清方著『随筆集 明治の東京』より「築地川 明石町(表紙)」「浜町河岸(口絵)」

鎌木清方著『鎌木清方随筆集』より「築地川 築地橋(表紙)」「築地明石町(口絵)」

『画集 東京と大阪』より「東京 築地川」「氷店」「船住居)」「鎌木清方繪入本 御濠端」(「柳の井」「大手町附近)」

「新江東圖説 江戸川(『鎌木清方文集 五 名所古跡』)」

「樋口家の墓 写真」(参考資料)

収蔵品展 「清方の正月 羽子板展」

清方の作品は、しばしば押絵羽子板の題材に取り上げられていた。

清方が最も心惹かれた明治の暮らしや風俗を描いた「明治風俗十二月月」の押絵羽子板とともに、新春らしい口絵や作品を展示した。

会期 平成 21 年 12 月 22 日(火)～平成 22 年 1 月 24 日(日)

(開館日数:22 日)

総入館者数 3,088 人(一日平均:140 人)



関連記事

「鶴木清方記念美術館 収蔵品展「清方の正月 羽子板展」

(11月15日 鎌倉新聞)

「鶴木清方記念美術館 収蔵品展 清方の正月 羽子板展」

(11月25日、12月25日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鎌倉市鶴木清方記念美術館 収蔵品展 清方の正月 羽子板展」(12月1日 鎌倉萌)

「鶴木清方記念美術館 収蔵品展「清方の正月、羽子板展」」(12月1日、1月1日 かまくら四季のみどころ)

「はみ出し情報 鎌倉市鶴木清方記念美術館 収蔵品展「清方の正月 羽子板展」」(12月1日 江ノ電沿線新聞)

「鶴木清方記念美術館 収蔵品展「清方の正月 羽子板展」」(12月15日 広報かまくら)

「鎌倉の鶴木清方記念美術館で押絵羽子板や初春に関する作品展開催」(12月28日 リビング横浜南)

「明治風俗の押し絵羽子板展 鶴木清方美術館で口絵も」(1月1日 鎌倉朝日)

「収蔵品展「清方の正月 羽子板展」」(1月8日 読売新聞)

出品作品

「ためさるゝ日(右幅)」「大和路の或る家」「雪空」「松のうち」「牡丹 二」「宝珠」

「鉢植の梅松(試筆)」「雪旦(下絵)」「蕪(下絵)」「木下川探梅(下絵)」

スケッチ「沈丁花」「ためさるゝ日 踏絵」「水仙」「落の臺」「春の七草」

口絵「初夢(清方畫譜の一)(『講談雑誌』)」「都大路(『文藝界』)」「春を待つ(『文藝俱樂部』)」

「瑞香(百花百姿)(『新小説』)」「虎の門 見立十二姿の内(『新小説』)」「紅梅(『女學世界』)」

「初東風(『大正婦人』)」「渡邊霞亭著『渦巻』續編「春霞巾を着けた女(『婦人世界』)」

『中央公論』口絵(「南枝綻ぶ」「道成寺」「梅王丸」)

「新江東圖説 今井橋 早春の不二(『中央公論』挿絵)」

『苦樂』表紙(「紅椿」「道成寺」「雪」「西鶴のお七」「きさらぎ」「春を待つ」「松ノ内」)

『少女界』表紙(「きさらぎ」「看梅」)

『婦人之友』昭和13年1月號、昭和17年1月號表紙

「春を待つ(『苦樂』下絵)」「松ノ内(『苦樂』下絵)」

『文藝俱樂部』附録(「軍国をんな雙六」「新案雙六當世二筋道」「鱈崎英朋・鶴木清方合作新年大附録「松の内」)」

押絵羽子板(「春の夜のうらみ」「明治風俗十二月月」「ためさるゝ日」) 伊東深水画 羽子板

風呂敷(「扇面に松・藤と梅」「扇面に竹と梅」「凧と梅」「張子の虎とキンカン」) 「梅(ふくさ)」

収蔵品展 「江戸の面影 ―清方が描く徳川慶喜、曲亭馬琴…そして江戸美人―」

明治の東京に生まれた清方は、江戸時代から続く庶民の生活やその文化を愛した。

清方の作品の中には江戸の風情が感じられる作品が少なくない。

明治に残る江戸の情緒を味わえる作品を展示した。

会期 平成22年1月28日(木)～平成22年2月21日(日)

(開館日数:22日)

総入館者数 2,055人(一日平均:93人)



関連記事

「鑄木清方記念美術館 収蔵品展 江戸の面影」

(12月25日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「収蔵品展 江戸の面影」

(旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

「鑄木清方記念美術館 収蔵品展「江戸の面影」」(1月1日 かまくら四季のみどころ)

「アート探訪 鎌倉市鑄木清方記念美術館」(月刊誌華道2月号)

「江戸の面影 清方が描く徳川慶喜、曲亭馬琴…そして江戸美人」(2月20日 美術の窓)

「鑄木清方記念美術館 収蔵品展「江戸の面影」」(2月1日 広報かまくら)

出品作品

「曲亭馬琴」「慶喜恭順」「大蘇芳年」「錘槿」「虫の音」「栗をむく娘」「山百合」「白梅」「年増美人」「太夫」「桜乙女」

下絵 「霽れゆく村雨」「霽れゆく村雨(小下絵)」

「麗人影像(二)(三)『今様絵詞の会』」「田舎源氏」「たけくらべ(霜の朝)」「三菱銀行」

「花火」「金魚屋」「十一月の雨」「江戸風俗」

「金の井の李月夜(庄屋やしき、月の江戸川)」

「蜆」「汐路のゆきかひ」

『清方美人畫譜』(「春雨の寮」「幕間」「初雪」「濱町河岸の秋」)

『鑄木清方繪入本 御濠端』(「御濠端 辦慶橋」「御濠端 紀尾井町」)

スケッチ 「曲亭馬琴のためのスケッチ」(2点)「蓮」「苺」「慶喜恭順のためのスケッチ」「家康」「御濠端 辦慶橋」

「江戸美人」「亀戸梅園 臥竜梅」「大川雪景色」「佃の渡」

口絵 「大鳥毛(『新小説』)」「『文藝俱樂部』(「伽羅」「小春」「汐干狩」「八幡鐘)」

「潮田主水 有馬浴泉に遊ぶ」「千代田の大奥(『講談世界』)」

「風俗美人畫(一)松の内(「朝日カレンダー」一月)」

「千葉市美術館編『八犬伝の世界』」

「鑄木清方著『鑄木清方文集 一 制作餘談』」

「塩田良平著『写真作家伝叢書9 樋口一葉』」

「佐々誠一(醒雪)著『俗曲評釈 箏唄』」

『鑄木清方記念美術館叢書9 官展(文展・帝展・日展)への出品作』

収蔵品展 「明治の風俗画」

江戸から明治になると、西洋の様々な文化が日本に入ってきた。外国人居留地だった築地明石町では、西洋風の家が建ち並び、ガス灯の点る文明開化の雰囲気覆われていた。しかし、さほど遠くない清方が暮らしていた京橋木挽町界隈では、明治二十年代になっても昔と変わらぬ下町の穏やかな日常が続いていた。清方は、この両方の空気に浸りながら成長し、後の画境の礎となった。

本展覧会では、明治の情緒たどる作品を展示した。

会期 平成 22 年 2 月 27 日(土)～平成 22 年 4 月 11 日(日)

(開館日数:38 日)

総入館者数 3,905 人(一日平均:102 人)



関連事業

「春休み子ども参加プログラム」

【テーマ】日本画材を使って和玩具と色紙に描こう

【開催日時】平成 22 年 4 月 2 日(金)、3 日(土)9:30～10:30

「春休み親子鑑賞」

【開催期間】平成 22 年 3 月 26 日(金)～4 月 4 日(日)

関連記事

「鑑木清方記念美術館 収蔵品展 明治の風俗画」

(12 月 25 日、2 月 25 日 藤沢市の生涯学習情報誌 学びの道あんない)

「鑑木清方記念美術館 収蔵品展「明治の風俗画」」(3 月 1 日 広報かまくら)

「鑑木清方記念美術館 収蔵品展「明治の風俗画」」(3 月 1 日 かまくら四季のみどころ)

「美術館・文学館めぐり 鑑木清方記念美術館 明治の風俗画」(3 月 1 日 鎌倉朝日)

出品作品

「嫁ぐ人」「秋宵」「暮れゆく沼」「新大橋之景」「朝夕安居 夕」「ほづき」「女役者衆八」「牡丹 一」

「築地明石町の船・詞」「浅みどり」

「註文帖畫譜(第 1、2、4～7、9、11 図)」

下絵 「築地明石町」「鯛」「朝夕安居 朝」「野辺の女学生」「明治の女」(2 点)

「築地川界限」(「軽子橋」「築地河岸」「合引橋」「佃の渡」「明石町」2 点)

『画集 東京と大阪』より『東京 築地川』(「明石町」「伊達家水門」「紫陽花の垣」)

口絵 「小栗風葉著『横恋慕』」「小杉天外著『魔風戀風』中編

「そぞろあるき(『文藝俱樂部』)」「花吹雪(『文藝俱樂部』)」「菊池幽芳著『乳姉妹』後編

「おしろ酒」「後の初子」「散歩」「ボート、レース」「彩色」

「新緑(銅臭)(『新小説』)」「小杉天外著『麗子夫人』前編」「真山青果著『空虚』(『新小説』)」

「谷崎潤一郎著『幼少時代』挿絵、表紙絵」

「泉鏡花著『高野聖』(『苦樂』)」「泉鏡花著『高野聖』(『苦樂』)表紙絵下絵」